

△新刊紹介▽

1 「新しい学力観に立つ 国語指導法」 (興水実編著)

2 「講座 文学教育 (全三巻)」 (文学教育の会編)

3 「文法学習の範囲と系統」 (石井 庄司 井上 敏夫 望月 久貴 古田 拓 宮崎 健三 共編)

国語教育関係の新刊書の中から、右の三書、つまり 1 国語教育全般に関するもの 2 文学教育に関するもの

3 言語教育に関するものを、それぞれ一つづつ取り上げて、それぞれの立場・内容・特色などを簡単に紹介する。

「新しい学力観に立つ 国語指導法」

(興水実編)

本書は、一九五九年八月、仙台市で行なわれた第七回全国国語教育者集会の記録を編集したものである。(この会は、六十人ばかりの国語教育専門家八人として小学校・中学校の先生Vの集まりで、一九五三年八月、京都で発足した。すでに「人間形成の国語教育」「国語学力その学年基準」「国語指導法の再建」「言語経験と教室活動」「読み方教育学」の五冊を、興水氏の編著で出している。)

本書で主として取り上げられている問題は、「目的性や価値性を取り入れた新しい学力観に立つ 国語指導法のくふう」である。このテーマが取り上げられたのは、戦後の国語教育が、とかくうろたわすべりしがちであったこ

とに対する反省によるものであり、直接には、新学習指導要領が「思考力を伸ばし、心情を豊かにする」という国語教育の目的や価値の面を強く押し出してきたことによるものと思われる。

前編と後編とになっているが、前編は興水氏の講義と質疑応答の記録、後編は七つのグループの研究発表と討議の記録で、両編の関係は必ずしも密接とは言えないようである。

前編では、問題史的立場から、あるいはまた、外国理論との比較によって、国語学力の見かた、教材研究のあり方、指導法のあり方が簡潔に述べられている。後編では、主として実態調査にもとづいて、各種の問題が研究されている。

前編

第一章 国語学力の見かた
第二章 教材研究のありかた
第三章 指導法の考えかた

後編

第一研究 総合グループ
第二研究 思考グループ
第三研究 聞くこと話すことグループ
第四研究 読解グループ
第五研究 読書鑑賞グループ
第六研究 作文グループ
第七研究 ことばグループ

(一九五九年十一月発行A五判三五二頁 五八〇円明治図書KK)

「講座 文学教育 (全三巻)」

(文学教育の会編)

「文学教育は、教育のいとなみのなかで、

正しく計画的に指導せられなければならない。それには、すべての教師が、文学教育について正しい理解をもち、人間の幸福につながる文学を、教育のなかに正しく位置づけ、未熟をきりひらいていこうとするこれからの子どもたちの心のなかに、育てていこうとする熱意にまたなければなりません。この講座は、そういう意味で、文学教育をどう理解しているか、文学教育をどのような方法によって実現していくか——という文学教育の目的と方法、文学教育の歴史と現状、外国における文学教育、およびジャンル別文学教育の思考と方法など、つまり、文学教育を正しくうちたてるための基礎的な理論、いわば総論ともいわれるものを、全三巻におさめました。しかも個人的な立論におちいる危険をさけて、重要な問題については、シンポジウム形式をとったことは、講座としてはこれまでになく新しい試みであるといっていいでしよ。

(まえがき)

- I 文学教育の目的はなにか
- II 教育構造のなかで文学教育はどのような位置をしめるか
- III 文学教育の方法 (以上第一巻)
- IV 文学教育の歴史と現状
- V 外国における文学教育
- VI 文学教育における今日の課題点 (以上第二巻)

III ジャンル別文学教育の実践

▲付V 文学教育の実践をゆたかにするために

(以上第三巻)

二巻の▲付Vには「わが国における文学教育運動の現況調査」が、三巻には「文学教育文獻リスト」「文学教育の理論と実践」(日本児童文学大系6三―書房刊)所収のリストの続編)がつけられており、利用者には便利である。

- ①昭和三十四年六月十八日発行②昭和三十四年八月一日発行③昭和三十四年九月一日発行A五判④212頁⑤236頁⑥220頁各三〇〇円牧書店)

「文法学習の範囲と系統」(石井庄司他共編)

全国大学国語教育学会の共同研究の成果として刊行されたものである。(昭和三十一年五月十七日、広島大学教育学部において、第十二回学会が催された際に、文法教育の範囲と系統が学会の共同研究のテーマとして取り上げられることになった。)研究のまとめは、東京近辺在住の会員によってなされている。

小学校編・中学校編・高等学校校編の三編から成る。各編とも、はじめに文法教育の意義が述べられ、次に、読む(読解)、作る(作文)、話すこと(聞くこと)(話しことば)など

のための文法指導について、その範囲・系統・方法が述べられている。具体的な指導事例もあげられている。

小学校編

- I 小学校での文法指導の意義
- II 読むための文法指導の範囲と系統
- III 作るための文法指導
- IV 聞くこと(話すこと)のための文法指導

中学校編

- I 中学校における文法教育
- II 読解のための文法指導
- III 作文のための文法指導
- IV 話しことばのための文法指導

高等学校校編

- I 高等学校における文法教育の意義
- II 古典学習のための文法指導
- III 作文のための文法指導
- (一九五九年十一月発行A五判二七九頁 明治図書K K)

以上の三つの書は、いずれも共同研究の成果として刊行されたものである。今後の研究は、ますます共同研究の方向へ向かうのではあるまいか。とすれば、これらの三書について、今後の共同研究のあり方を考えてみるのも、一つの読み方になるかもしれない。

(K, O)